

平成 17 年度 第 15 回秋季シンポジウム

「型破りの美学 ―煎茶と茶室の時空間から―」

茶道の美は、さまざまな「型」の組み合わせによって成り立っています。茶室でのふるまいや服装、茶室建築、部屋のしつらいなどに、きめ細かい約束事があることは、多くの人がご存知でしょう。それらの約束事には、すべて合理的かつ美的な理由があるといわれています。しかし、伝統的で絶対的と思われている約束事のなかには、それまでの美意識や常識を「破る」ことによって成立したものも少なくありません。従来の型と美意識を破ることによって、新しい型と美意識が誕生するのは、美術や芸能の世界では珍しいことではないのです。古くからの型の何が受け継がれ何が破られて新しい型が生まれるのか、型の寿命はどのくらいなのか、破ることの覚悟と快感とはどのようなものか。本年度の秋季シンポジウムでは、このような疑問を煎茶と茶室の時空間に投げかけてみます。

講演者

小川 後楽 氏：煎茶小川流家元

中村 昌生 氏：京都工芸繊維大学名誉教授

記

日時

2005 年 12 月 3 日（土） 13：30～17:15

場所

武庫川女子大学 甲子園会館 西ホール

参加費

無料

次 第

13:00 受付開始

13:00 開会あいさつ 森谷尅久（生活美学研究所）

13:40 講演 1「煎茶の型と美意識」小川 後楽（煎茶小川流家元）

14:30 講演 2「茶室と数奇屋」中村 昌生（京都工芸繊維大学名誉教授）

15:20 休憩

15:50 パネルディスカッション

参 加 者

小川 後楽（前掲）

中村 昌生（前掲）

井上 章一（国際日本文化研究センター教授・生活美学研究所嘱託研究員）

進行

角野幸博（生活美学研究所）

総合司会

横川公子（生活美学研究所）

17:15 閉会